

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会 | Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

<熊の冬籠り穴> 前48号に続く:

<穴造り>

①熊が穴を掘る時季は、10月以降であることが多い。1日で掘り上げることもあれば、数日かけて掘ることもある。掻き出した土砂は入口の前に散乱堆積させている。

② 硬い土質の穴の壁には、穴掘りの際の熊の爪痕が縦横に残っていることがある。③ 「老練な熊ほど大きな良い穴を造る」とする説もあるが、実際に多数の穴を調査した結果では、そのような相関は全く見られない。若グマでも広い快適な穴を造るものもあれば、粗末な穴しか造らないものもある。同じ事は、老若・雌雄・懷妊の有無・子の有無に関係なく共通してみられる。

④ ところで、稀ではあるが、冬籠り中に穴を改良するために、穴を掘り広げる熊もいる。

<穴と地形・植生>

① 冬籠り穴は、起伏に富んだ地形の傾斜10～40度の斜面の途中に造られ、斜面の頂部や平坦地に造られることはない。斜面に穴が造られるのは

掻き出した土が入口に堆積せず、穴掘りが容易に進行することから本能的に選ばれるのである。

② 土質は熊が爪で土砂を掻き出し得るところが選ばれる。植生は林床植物が繁茂していることで(根が天井の土が崩れ落ちるのを防いでいる)、林相は無関係である。人工林でも4～5年間施行しないと穴が造られることがある。

③ 穴の造られる斜面の方位は様々だが、概して多雪地である。標高は、高い場合でも森林限界までである。これまでに標高が最も高い所の穴は大雪山の1,500m付近で、最低は羅臼町ポン春茹古丹ジュンカリコタンの標高150mで発見された穴である。しかし、現在のように開発が進んでいなかった以前は、標高100m以下の所にも越冬穴が造られていた。

<穴の掘り方>

① 熊が自ら掘って造る穴は横穴で、掘り方は穴を掘る場所の傾斜の度合いによって3通りある。〈1〉急斜面では最初からまっすぐ横穴状に掘り進めるが、〈2〉緩斜面では少し斜め下方気味の横穴として掘り進める場合と、〈3〉はじめに浅い窪地を掘り、その窪地の奥を起点に横穴を掘り進める方法である。

② 熊は地形を良く見て合理的な掘り方をする。穴は立木や伐採した未抜根木の張根下に造られるほか、林床の下草の下にも造られる。しかし全くの裸地に穴が造られることはない。それは張根下や繁茂した林床下でないと土砂が崩れ、穴が掘れないからであろう。

<穴の構造>

穴の基本的な構造は1つの入口と、その奥にある身体を収容する1つの寝場所とからなっている。入口のすぐ奥が寝場所となっている穴も多いが、入口と寝場所との間が50cm～1mほどトンネル状になっている穴もある。トンネルの口径は入口とほとんど同じであることが多いが、入口から右方または左方にこのトンネルが鉤状の手に曲がって寝所に続く穴もある。

<入口の大きさ>

① 穴の入口の大きさは、木の張根の間を入口に利用して造られた穴では、その張根の開き具合によって決まるから大きさもいろいろである。張根を直接入口に利用していない場合の入口は普通狭く、縦・横とも30～40cmほどで、熊が這いつくばらないと出入りし得ない大きさである。

② しかし稀に、熊が容易に出入りできるほどの非常に大きな入口の穴もあって、このような穴に人が気づかずに近づいたりすると、熊が瞬時に飛び出て人が襲われたりする事がある。

(丁)

